

この時期の発達過程

平行感覚がますます発達してきて、片足立ちや両足をそろえてピョンピョン跳ねたり、鉄棒やブランコなどでも遊べるようになってきます。お散歩をしていると、幅の狭い縁石ブロックなどを見つけて歩こうとするお子さんもいらっしゃるかもしれません。平衡感覚を洗練したいという生命の欲求の現れですね。床にビニールテープなどで直線をひき、線の上を落ちないで歩く遊びなどで代用出来ます。平均台も良いですね。

手の動きも巧みになり、お手伝いも大好きな時期。手首を使いながら小さなタオルをくるくる巻いておしぼりを作ったり、洗濯物を洗濯ばさみで留めたり、お皿を洗ったりなど、様々なことが出来るようになります。日常の身近な活動に積極的に参加させてあげましょう。

お子さんの偏食や食が細いとお悩みの方は、食事の準備に参加させてあげることで、食への意欲や興味を引き出せるかもしれません。テーブルを拭いて貰ったり、みんなのお箸を並べて貰ったり、何か役割を与える事で貢献感や責任感も育ちます。

料理のお手伝いも出来ることが増えていきます。ナイフでバナナを切る、卵の殻を剥く、ゴマをすり鉢でするなども興味を持ち出す時期です。安全面を注意しながら出来そうであればやらせてあげても良いでしょう。

子どもサイズのピッチャーを用意すれば、自分で飲み物を注ぐことも出来ます。失敗しても叱らず、やり方を丁寧に教えながら「自分で出来た！」という自信や意欲を育ててあげたいですね。

この時期のお悩み

「走りません！」「騒ぎません！」「片づけなさい！」など、毎日同じ事で何度も叱っているのに全然言うことをきいてくれない。イヤイヤ期も重なり、疲れてしまう。そんなお悩みが多いのもこの時期かもしれません。

どんな関わり方をすればお子さんに分かって貰えるのでしょうか。

子どもが言うことを聞いてくれないと、親の方もついイライラしてしまい感情的に怒ってしまうこともあるかもしれません。しかし感情的に怒っても、子どもは『怒られて怖い』と思うだけで、それで行動を改善しようとしたり、どうすればいいのかまでは考えられません。そこでおススメなのは、具体的に言ってあげると子どもは理解しやすいようです。また、「〇〇しません！」「〇〇しないで！」といったような否定語を使うよりも、「〇〇しましょう！」「〇〇しようね」などの肯定語を使う方がより伝わりやすいのでおススメです。例えば「走りません」ではなく「歩こうね」と言ったり「騒ぎません」ではなく、「静かにしようね」などです。

また子どもは目で見て理解する部分も大きいので、お手本を見せて示すというのも一つの方法。例えば片付けをする時も、「片づけなさい！」だけではまだやり方がよく分からないので、「これはここに片づけるよ」とやって見せる。玩具など、片づける場所がいつも定位置で決まっているのなら、出来ればその物の写真などを収納しているところに貼っておいてあげると、ここに片づけるんだという事が目で見てすぐにわかるのでおススメです。

「靴を脱ぎっぱなしにしないの！」と何度も口酸っぱく言うよりも、玄関に靴と同じサイズのシートを貼って「ここにぴったり揃えて置こうね」と教えてあげるほうがやはり効果的ですので、良かったら試してみてくださいね。

何度言っても分かって貰えないと、「また同じことを言わせて！」とイライラしてしまう事もあるかもしれませんが、子どもはこの世界に生まれてまだ2年ちょっと。失敗体験も含めて、毎日色々な実体験を通して様々な事を学んでいる真っ最中です。そんな時に大人が子どもに完璧を求めたり、高いレベルを求めてしまうと親自身も辛くなってしまいます。まだまだ先の長い子育てです。「まあ、いいか」「今日はこれだけ出来た！上出来！上出来！」そんな風にして、大らかな気持ちを持ちで肩の力を抜きながら向き合う、というのもこの時期の子育てには必須ですよ！

井上エリ

子どもの心の根っこを育むcocorone主催。
アドラー心理学とモンテッソーリ教育を活かした子育て講座をオンラインで開催中。
また、自身の保育士経験も活かしながら保育士向けの研修もしている。
アドラー勇気づけ講師、モンテッソーリ教師、8歳と1歳の女の子と男の子のママ。
インスタグラム、ブログも更新中。



STAGE14
(2歳6か月
~2歳8か月)



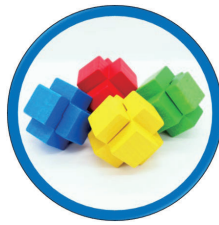
保育園がつくる
子育てサブスクリプション

パッケージ紹介

1

トータム16×2セット (レシオ社)

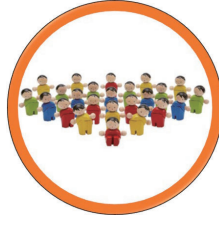
トータム積み木は、形はすべて同じ。ですが、積み方や並べ方でどんどん変化する不思議な積み木です。試しに2個の積み木だけで何種類の積み方があるか？大人もトライしてみてください。縦、横だけでなく斜めの積み方も見つけられます。ブロックと異なるのはずらしても崩れなければ成立する、というところ。実はくっつけたら壊れにくいブロックよりも、微調整が要求される積み木の方が「高度」な遊びともいえるのです。大人が真剣になっていると、子どももいつの間にか隣に座って積んだり並べたり・・・「何が出来たのかな？」



2

ミニドール4人 (プラントイ社)

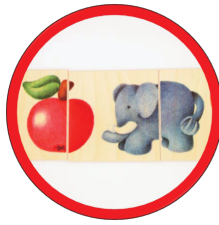
赤・黄・青・緑の4人のミニドール。胴体の切れ目を指先でしっかりと持ってぐるりとひねると体が斜めに傾き始めます。斜めの状態でも自立してちゃんと立ってくれますし、座った姿勢にすることも出来ちゃうのです。ミニドールの二人が向き合うと、あつという間に何かお話しし始めます。同じパック内の「トータム」と色がリンクしていますので、一緒に合わせて遊ぶことで子どもたちの想像力が引き立てられます。トータムで作った階段にミニドールを登らせて、「よいしょ、よいしょ、ずいぶん高い階段だね、てっぺんに到着～」と、自分の体験したことと重ねてみるのもいいですね。



3

ピクチャーチェーン (セレクトタ社)

途切れた絵をパズルのようにつないでいくと次から次へと新しい絵が現れて、ファンタジーの世界が広がります。とはいえ、子どもにとって切れた絵を繋げることは大人が思う以上に難しいこと。経験と共に判断が早くなっていきます。カードがずれないように、と気を付けながら並べることも大変なこと。ずれると「いやだあ～！」と、心折れそうになるかもしれませんが「揃えたい」という気持ちがしっかりと育っている証拠ですね。



4

カラフルパズルあひる (ジョージラックパズル社)

デザイン的に考慮された配色が、一つ一つのパーツをはっきりとわかりやすくしています。形の一部だけをヒントにはめ込もうとするのが子どもの判断の特徴的な様子。大人が少しずつヒントを出してあげることでだんだんと根気よく完成させるようになっていきます。7ピースで完成されたその絵は、ヒヨコがママに「できたでしょ？」と話しかけているようですね。



5

ギアパズルネオ (プラントイ社)

ちょっと高度な組立あそび。ギアを上手く噛み合わせると、1つのギアを動かすだけで全てのギアが運動して動きだします！その発見を驚きに、子ども達は大喜びです。生涯つづく“学びたい心”は幼児期の遊びを通して育ち、そこで大切なのは結果よりも学んだプロセス。何よりも「面白かった！」という温かな記憶です。それらの経験が、こころ・頭・からだを育みます。「こうしたらどうなる？」「どうやったらできる？」ギアパズルネオの中にも【アクティブ・ラーニング】のシーンがいっぱいです！



6

スタッキングツリー (プラントイ社)

美しいグラデーションの8本の木製パーツを縦横交互に積み上げていくことで、凛とした姿の大木が出来上がります。イメージ通りに完成させるためには、幼い子なりの計画性も必要とされます。出来た木に同じパッケージ内のミニドールが木登りしてもいいですし、スタッキングツリーがトータムで作られた街のシンボルになるのもステキですね。



絵本

ぼくのくれよん

登場したのは一見、ごくふつうのオレンジ色のクレヨン。ところがページをめくると、その上に、猫が乗っている！？そう。実はこれ、大きな大きなゾウのクレヨンなのです。巨大なクレヨンを鼻で「にゅー」つつかんで、「びゅー びゅー」と次々に絵を描くゾウ。それはもうすごい迫力で、ジャングルの動物たちは、本物の池だと思って飛び込んだり、火事だと思って逃げ出したり、次々と勘違いをしてくれます。子どもたちが毎日のように手にする道具なのに、ちょっと考えもつかない設定です。カラフルで大胆なクレヨン画を眺めながら、感覚を刺激された子どもたちはきっと自らの手にもクレヨンを持って何かを描きはじめるのではないのでしょうか。



絵本

おおきなかぶ

おじいさんが植えたかぶが、甘くて元気のよいとてつもなく大きなかぶになりました。おじいさんは、「うんとこしょどっこいしょ」とかけ声をかけてかぶを抜こうとしますが、かぶは抜けません。おじいさんはおばあさんを選んで一緒にかぶを抜こうとしますが、かぶは抜けません。おばあさんは孫を呼び、孫は犬を呼び、犬は猫を呼んでくれますが、それでもかぶは抜けません。とうとう猫はねずみを呼んでくれますが……。力強いロシアの昔話が絵本になりました。



うた

わらべうた

YouTube このトイChで紹介しております。QRコードからご確認ください。

